

うに郷通信

No.161
令和4年(2022)12月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

第15回コスモスまつりを開催しました



10月23日(日)、コロナ禍の影響で一昨年・昨年と同様に参加者数や規模を大幅に縮小して「第15回 宇仁の里・花畑街道コスモスまつり」を開催しました。

8月に加西市民会館において開催された「兵庫県小学校教育研究会特別活動研究大会 播磨東大会」のアトラクションでは、『宇仁っ子ふるさとガイド隊』の7期生(5年生)が宇仁郷の歴史や美しい風景などを300人近くの前で堂々と発表して高い評価を受け、この度のコスモスまつりでは新しく8期生15人(4年生)のガイド隊が元気いっぱいにデビューしました。

今年は、新たな試みとして、宇仁小学校の校舎内で2班に別れ、宇仁郷の歴史紹介や学校案内など、参加者を飽きさせない様々な工夫や気配りと、この日のために地域の方々から聞いたお話や探求してきた内容を取りまとめ、授業で使用しているパソコンから映像を映し出しながら身振り手振りのジェスチャーを加えた動きで、大変分かりやすい上手な説明には驚かされました。また、多数参加していただいた「うれしの学園生涯大学学友会加西支部」の皆さんや、芦屋市翠ヶ丘まちづくり協議会の皆さんも、8期生のとても立派なガイドに感心されていました。

その後、参加者の皆さんは、油谷町でのサツマイモ掘り体験や、コスモス街道を散策するウォーキングと、はつらつ委員会主催の三世代ふれあいグラウンドゴルフ大会に別れ、各世代間の交流や宇仁郷の秋を楽しんでいただきました。

※「JA 兵庫みらい」多加野支店から多数の景品のご提供や「滝野温泉 ぽかぽ」から割引券をいただきました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。(事務局)

獣害対策の取り組み

油谷町の「獣害対策」の取り組みを報告します。油谷町に限らず他の町内も猪や鹿による被害に頭を痛められておられると思います。油谷町は、①集落に入り込んだ「害獣」の削減、②集落への侵入を限りなく防ぐ、の2本の柱で取り組むことにしました。

まず、油谷町は四方を山で囲まれた地形のため、一年中害獣の被害があります。そこで、2年前に一念発起で『わな猫、狩猟免許』を取得し、市役所職員の玉置さんのアドバイスを受け、猟友会荒瀬会長の協力のもと、「6月～8月の有害捕獲」と「11月～2月の狩猟期間」に集落に入り込んだ害獣の捕獲に努めています。ちなみに、昨年度の実績は猪9頭、鹿1頭でした。

次に集落への侵入を限りなく防ぐ取り組みとして、歴代区長経験者にも参加をお願いし、有志8人参加のもと、今年4月に「獣害対策委員会」を立ち上げ、油谷町独自の会規約や組織図も玉置さんの後押しで作成しました。委員会の主な活動は、油谷町北山中に張ってある防護柵の点検、猪や鹿に破られた箇所のかまめな修理です。昨年までは年間2回の点検・修理でしたが、現役で忙しいメンバーですが時間を作って、5月より毎月1回防護柵に沿って歩き、猪に破られた箇所の点検・修理を行い、作業日誌も残して時系列に防護柵の破損状況を管理しています。

今後の課題として、地区住人の出生率より猪の出生率の方が格段に多く、総有害個体数が総住人数を超える日が来るかも知れないということ。With猪、With鹿の生活はもう終わりにしましょう。有志7人～8人での活動には限度があります。町内の方々のご協力や近隣他町の参加を募り、宇仁地区全体で獣害対策を推し進め、獣害被害ゼロに近づけていきたいと思っています。(油谷町 宇仁英樹)



宇仁の朝市を詠んだ短歌を紹介します

「宇仁の朝市」の様子を見事に詠んだ短歌をサルビアクラブ加西(加西市老人クラブ連合会)の文化展で発表されました。作者は朝市女性スタッフの一人で、レジ担当として月に一回ほど参加していただいています。お話をうかがいますと、長年続いている朝市のスタッフや生産者の方に感謝の気持ちを込めて短歌を詠まれたそうです。

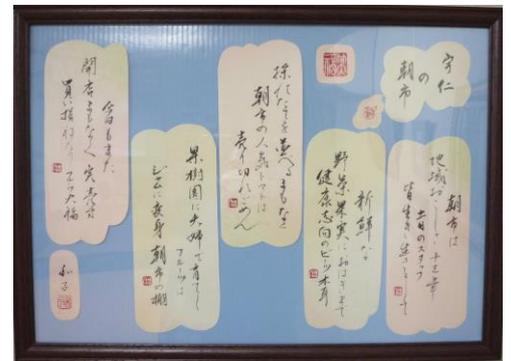
宇仁の朝市が始まって13年が経過しました。男性スタッフは早朝・夕方の家事や農事作業にとって貴重な時間帯を惜まずに、金曜日の夕方1時間(当初は2時間以上かかっていた)、土曜日の11時30分頃までの約4時間と夕方の約1時間、日曜日午前中の約2時間、閉店後はパソコンによる清算処理と銀行での入出金処理などを行っています。これを毎週行っていますが、スタッフから不平不満が出たことはありません。13才も歳をとったのにお互いに歳を感じていません。それを表した歌が『朝市は 地域おこしで13年 土日のスタッフ 皆生き生きとして』です。ありがとうございます。

この歌以外に4首の短歌を詠まれています。これらの歌は、生産者とお客さんの様子を鋭い洞察力で観察して表現されています。「この歌は私のことだ。これはあの生産者のことだ」とすぐわかります。

- 新鮮な 野菜果実におはぎまで 健康志向のビーツ木耳きくらげ
- 採れたてを 並べるまもなく 朝市の人気トマトは 売り切れごめん
- 果樹園に 夫婦で育てしフルーツは ジャムに変身 朝市の棚
- 今日もまた 開店まもなく完売す 買い損ねたり フルーツ大福

私は、「もしこの朝市に参加していなかったら今どないしとるやろ」と思うことがあります。多分、無気力・無関心な一日を過ごしているのかなと思っています。高齢者には「きょういくときょうよう」が必要と聞きました。「今日行くところがある」と「今日用事がある」のことです。これを実行させてくれるのが朝市かなと思っています。

大変励みになる歌をいただき本当にありがとうございました。見るたびに力がふつふつと沸き立ってきます。スタッフ一同心新たに朝市を継続していきますので応援よろしくお願ひします。なお、この短歌は宇仁ふれあい館に掲示されていますので是非お立ち寄りください。(朝市スタッフの一人)



宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達⑨

宇仁郷まちづくり協議会

1. 活動方針の展開に 3 部会が先行

協議会設立時、25項目の施策を5ヶ年計画(平成20年～平成24年)で推進し地域の再生を図る遠大な構想を37人の役員でどう進めるのか、活動組織と活動資金の捻出をどうするのかの課題もありました。実践の果実を宇仁小改築に結び付けなければならない地域の熱意と役員使命感が原動力になり、地域の活性化施策が進みました。平成20年代、少子高齢化の進展、核家族、都会への就職等に伴い地方の人口減少が進み、保育園、幼稚園、小学校の在り方が全国的に議論されるようになり、地域活力の再生は待ったなしの状況になっていました。

協議会の組織は、宇仁地区6町の区長と施策を進める部会をマトリックス構成にして役割の明確化を図り、定例会で議論して情報の共有化と納得性を高めていきました。施策は第一段階として平成20年5月1日子育て中のお母さん方を支援する「宇仁校区子育て支援センター」部会(部会長井上博明/黒崎忠彦)、平成20年8月25日6町に春は菜の花・秋はコスモスを栽培する「宇仁の里・花畑街道」部会(部会長稲木善英)、平成21年7月5日野菜の地産地消を進める「宇仁の朝市部会」(部会長繁田昭彦)の3部会が立ち上がり、後の部会增加の先導的役割を果たし、宇仁地域の変化は市・県に大きなインパクトを与えました。

広報活動として活動の様様を県、市、市議会、新聞社に提供してきました。

右図は現在(令和4年)の部会組織

設立当初(平成20年～21年)は、子育て支援センター、宇仁の里・花畑街道、宇仁の朝市の3部会のみ

次回以降11部会の活動を順次紹介していきます。

